

がん社会 を診る

中川 恵一

30年以上がんの専門医として2万人を超える患者の治療に関わってきましたが、多くの日本人は最先端医療を受けることが、がん死亡を避ける上で一番大事だと思っただけです。治療法も重要ですが、もっと大切なのが予防です。そのことを如実に示してくれるのが長野県です。

日本は世界に冠たる長寿命国ですが、地域別では平均寿命をはじめとする健康指標には大きなばらつきがあります。

がん死亡率は都道府県別では長野が最も低く、青森がワーストです。各県の年齢構成を考慮した人口10万人あたりのがん死亡数(年齢調整がん死亡率)では、青森は98・0人で、68・3人の長野より43%も多くなっています(2014年人口動態統計)。

平均寿命でも長野は男性80・88歳、女性87・18歳でともに1位ですが、最も短命なの

長野にみる予防の大切さ

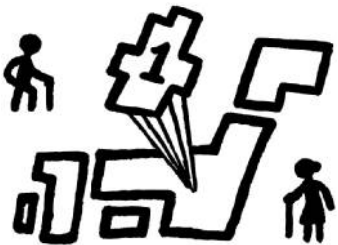
は青森(男性77・28歳、女性85・34歳)で、長野とは男性で3・6歳、女性で1・8歳の差があります。男女差も8・1歳と全国で最大で、男性の短命ぶりが目立ちます。

がんの半分から3分の2が生活習慣が原因ですから、長野のように長生きする生活習慣を持つ人が多い県ではがんで死ぬことも少なくなるのです。青森は逆に、男性の喫煙率は全国1位、女性も2位(2013年)で、肥満指数もトップクラスの上、野菜摂取や運動が足りません。その点、長野県民は喫煙も肥満も少なく、野菜摂取量は男女とも1位ですから、平均寿命にもがん死亡率にも歴然とした差がついてしまします。

全国に344ある医療圏のなかでも、全国平均と比べてがん死亡が少ないトップ10(男性)のうち、5つが長野県下にあります。飯伊医療圏が全国トップで、上伊那、松本、木曾でベスト4を占め、諏訪が8位です。

しかし、長野県は過疎地域が多く、先端的な医療機関が多いわけではありません。この5つの医療圏で、がんの高度医療が充実しているのは松本くらいです。東京の国立がん研究センターをはじめ、全国で32カ所のがん医療の中核的病院が「全国がんセンター協議会」をつくっていますが、長野県にはこの協議会に所属する病院はありません。長野は最先端医療ではなく、予防によってがんを減らし、長寿を達成したといえます。

(東京大学病院准教授)



イラスト・中村 久美